

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末を活用し、個別最適化を推進する授業づくり。</li> <li>・児童の実態に応じた教材づくり。</li> <li>・板書の工夫による視覚化。</li> </ul>	中間評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルドリルやオクリンク等を学習の導入やまとめで効果的に活用し、児童の意欲や学習理解を高めることができた。</li> <li>・タブレット端末を使用した協働的な学びの実践を、積極的に進めていきたい。</li> </ul>	最終評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年がデジタルドリルを継続して活用した。児童の課題に応じて取り組むことができた。</li> <li>・オクリンクや発表ノートを用いて学習課題に取り組み、児童同士が交流する活動に取り入れることができた。</li> <li>・分散登校中に、チームズによるオンライン授業を実施し、全学年で学びの継続に努めたことにより、指導計画通りに学習を進めることができた。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルディスタンスや三密回避を意識させる工夫。</li> <li>・学習・生活の規律の徹底。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下等の掲示物や床の目印、看護当番の声かけにより児童の意識を喚起することができている。</li> <li>・生活指導夕会等で、児童の実態や課題を共通理解したり確認したりして、教職員全員で指導している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週の生活指導夕会と看護当番による生活指導の連携が良好だったため、児童が安全に落ち着いて生活することができた。</li> <li>・不登校等、児童や家庭の問題に組織的に対応することにより、担任の負担が軽減されたが、状況の改善に向けては、専門機関や地域との協力をより密にしていける必要がある。</li> </ul>

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）	
1	国語	<p>【学】 学習意欲は高く、発言も多い。ノートの書き方も習得している。平仮名は、全児童が習得しているが、片仮名の習得は不十分である。全体的に丁寧さに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文を書くときに、助詞（は・を・へ）や促音、拗音、句読点等を間違えないようにすることが必要である。</li> <li>・自分の考えを文にできず、書き進められないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語事項に関わる家庭学習を増やし、繰り返し復習できるようにする。</li> <li>・語句や文の指導では、ノート等を書く活動を繰り返し行い、個別指導を徹底する。</li> <li>・考えの書き方の定型文やポイントを理解させて、繰り返し練習させる。ペアでの発表を積極的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字ドリルやドリルパークを適宜活用して、反復練習をすることにより、言語にかかわる内容の習得が確実に上がった。</li> <li>・課題の多い児童には、個々に宿題を出し、家庭の協力も依頼して、繰り返し学習するようにした。</li> <li>・説明や意見を書く学習では、例文を示したり、穴埋め形式で文を完成させたり、複数の方法を示すことにより、児童が自分の力に合わせて、学習を進めることができるようになった。また、ペアがグループで発表しあうが、友達の表現の良いところを学ぶ機会となり、主体的に推敲することができるようになってきた。</li> </ul>	
	算数	<p>【学】 学習意欲は高く、計算練習などには進んで取り組む。しかし、導き出した答えを言葉や図や絵で表現したり、説明したりすることに慣れていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考え方を友達に話したり、ノートに書いたりすることができるようにする。</li> <li>・問題の読み間違いや計算間違いをしないように指導することが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器を活用し、具体物を動かしたり、考えが上手に書いている児童のノートを写したりして、書き方を理解していけるようにする。</li> <li>・問題文を音読して、内容の理解を確実にしてから取り組むように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器の活用場面を増やすことにより、児童に課題が具体的に伝わり、学習理解が確実に上がった。</li> <li>・ドリルやテストで誤答の多かった問題を、再度授業で取組ませることにより、確実に理解させることができた。</li> <li>・文章問題に取り組む際は、図やヒントがあるものから始め、少しずつ自力解決できるように問題の提示の仕方を工夫した。また、誤答の多かった問題を全体で考え合って、正答に導く機会を設けた。</li> </ul>	
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	<p>【学】 物語文では音読を通して、登場人物の気持ちを考えて主体的に表現することを楽しんでいる。文字の書き取りでは、ひらがなやカタカナ、既習の漢字を正しく書くことができない児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習漢字について、正確に書く力を伸ばす必要がある。</li> <li>・助詞（は・を・へ）や促音、拗音の正しい表記に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニ漢字テストを定期的に行う。テストの前には、必ず間違いやすいポイントを確認して、授業で練習をさせたり、家庭学習で確認させたりする。</li> <li>・ノートを毎時間回収し、間違いがある場合には個別に支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生に配当されている漢字については書けるようになってきた。今後は、2年生の既習漢字について繰り返し練習するプリントに取り組むようにしていく。助詞（は・を・へ）や促音、拗音については、引き続き正しい表記に直させたり、MIMに取り組んだりして定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字については、漢字練習を繰り返すことなどを通して習熟に取り組んできたので定着した。また、文章を読んで自分の思いや考えを書いたり、経験したことを書いたりできるようになってきた。今後は、文の構成を整えて書く指導が必要である。</li> </ul>
	算数	<p>【学】 計算問題は積極的に行う児童が多い。しかし、文章題の意味が分からなかったり、計算で見直しをせずケアレスミスをしたことがよくあり、正確さに欠ける。繰り上がりや繰り下がり計算が苦手な児童も複数名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り上がりや繰り下がりのある加減計算の技能に課題があり、計算ミスをなくす必要がある。</li> <li>・文章問題の内容に合った立式ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章問題では、立式に必要な数字や言葉に着目させ、立式できるように指導する。また、デジタルドリルなどを活用して繰り返し取り組ませる。</li> <li>・デジタル教材を用いて、視覚的、体験的に理解できるように指導をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な加減計算については習熟してきた。また、加減の文章問題については内容にあった立式もできるようになってきた。今後は、かけ算の習熟と立式について、ドリルパークなどを活用して繰り返し指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算九九は繰り返し学習することで定着した。また、情報を適用して立式し正しい答えを出すこと、長さについては身近にある単位の理解と計算の仕方については、それぞれ繰り返し問題を解き、定着させていく必要がある。</li> </ul>
3	国語	<p>【調】 新宿区学力定着度調査の結果は、区の平均を10ポイント以上下回った。特に、漢字の読み書きの正答率が低い。</p> <p>【学】 語彙が少なく、漢字の誤答や書けない漢字も多い。文章を書かせても、習った漢字を使わず平仮名で書いており、書く量も少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文や物語文の読解の力が弱く、文章の内容を正しく読み取ることができるように指導する必要がある。</li> <li>・漢字の読み書きに課題がある。</li> <li>・自分の考えを文章に書き表すことが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文や物語文の練習問題を解く際には、答えの振り返りを大切にし、全体で文章を読みとって理解できるようにする。</li> <li>・漢字の家庭学習を毎日出す。</li> <li>・テーマや字数を決めた作文に取り組み、書くことに慣れたり、提示した書き方をもとに、書き方を学んだりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で文章を読み取って理解できるようになってきた。引き続き答えの振り返りを行い、間違いを自分で正すことができるようにさせたい。</li> <li>・漢字の習熟についてはまだ乏しい。現在も家庭学習に加えて国語の時間に5問テストを行っていく。</li> <li>・書き方の練習を行っているが、単語を書くときに平仮名や片仮名で躓く児童がいるため、引き続き行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文や物語文の読解力は、音読や説明文の読解を繰り返し行わせることによって定着した。しかし、漢字の習熟に差があり、書くことに苦手意識のある児童がまだ多い。次年度も繰り返し漢字の習熟には力を入れる必要がある。</li> </ul>
	算数	<p>【調】 新宿区学力定着度調査の結果は、10ポイント以上区の平均を下回った。特に、かけ算と計算の正答数が低い。</p> <p>【学】 学習に意欲的で発言も多い。しかしノートに書く時間や計算に時間がかかる児童が多く、計算ミスが目立つ児童も一定数いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章問題の立式や単位に気を付けた解答をするように指導をする。</li> <li>・演習量を増やして、解きながら理解する形を取る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリルパークを活用して、文章問題や計算問題を積極的に取り組ませ、既習内容の定着を図る。</li> <li>・文章問題は、図などに表して考え方をまとめる力をつける。位や繰り上がり、繰り下がり意識して繰り返し練習することで計算できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・府ドリルパークを活用することによって個別最適な学びが得られ、平均点も上がった。引き続きドリルパークを活用していく。</li> <li>・文章を図式化することにまだ苦手意識があるため、順序だてて問題をイメージできるよう取り組ませしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題をよく読んで取り組むことができ、短い文章問題には答えられる児童が増えた。一方で、文章で出てくる数の順番と式の順番が異なる問題については、まだ間違いが目立つ児童が多い。計算問題については、2桁×2桁の筆算に課題があり、次年度も繰り返し練習する必要がある。</li> </ul>

4	国語	<p>【調】 新宿区学力定着度調査の結果から、校内平均は目標値を上回った。しかし、話の内容を聞き取ることや物語の内容を読み取ることは目標値を下回った。</p> <p>【学】 個人差があり、自分の意見を相手にしっかりと伝えることができる児童はおよそ10名程度である。また、ノートに自分の考えを書く段階でも、伝えたいことが定まっていない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を正しく読み取ったり、聞き取ったりする力を伸ばしたい。</li> <li>・読み取ったことをもとに自分の考えをもち、それをノートに書きながらまとめ、伝えられる児童を増やしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事な言葉や文章にサイドラインを引きながら読み取り、ノートにまとめる機会を増やす。</li> <li>・読み取ったことや学習したことについての自分の考えを、学習感想として書き、発表することに繰り返し取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の読み取りテストについては、89%の児童が標準得点(82点)以上取ることができた。単元の学習を終えた時点では文章の内容を読み取ることができるようになってきたが、初見の文章を読み取る力が定着しているとは言えない。引き続き重要語句や中心となる文章にサイドラインを引いて内容を確認する学習を行っていく。</li> <li>・学習課題に沿って自分の考えを発表することができるよう、現在の取り組みに加えて対話形式で意見交流を繰り返していく時間を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力定着度調査の結果から、校内平均は全国平均を上回った。また、年度当初課題であった読むことについては、全国平均を上回った。しかし、話すこと聞くことについては、全国平均を下回った。引き続き、読み取ったことや自分の考えを、ノートにまとめて発表したり、対話形式で意見交流を繰り返したりする必要がある。</li> </ul>
	算数	<p>【調】 新宿区学力定着度調査の結果から、校内平均は目標値を上回った。しかし、文章問題を図に表すことや適切な単位を使うことは、目標値を下回った。</p> <p>【学】 計算問題が得意だが、文章問題になると聞かれていることに正対して答えられていない児童がいる。また、問題を正確に読み取ることの難しい児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章問題の意味を正しく読み取り、図で表すことができるように指導する必要がある。</li> <li>・身近なものの単位を正しく使うことができるようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教材を用いて視覚的に文章を読み取らせるとともに、聞かれていることと分かっていることに線を引かせるなどの工夫を授業に取り入れる。</li> <li>・具体物を活用しながら、体験的に単位の仕組みを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイドラインを引くことで、聞かれていることがどのようなことなのかを理解できるようになってきた。しかし、文章を図や絵に表したり、それをもとに立式したりすることができる児童は半数ほどである。今後も、複数回読んで問題に答えるなどの工夫を取り入れていく。</li> <li>・小数を用いて適切な単位で表すテストの到達度86%であった。小数の仕組みを学習したことで理解が深まってきていると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力定着度調査の結果から、校内平均は全国平均を下回った。年度当初課題であった測量の領域については全国平均を上回ったが、文章問題を図に表して問題解決することなど、応用面で全国平均を下回った。引き続き、デジタル教材を用いて視覚的に問題を読み取らせるとともに、聞かれていることと分かっていることに線を引かせるなどの工夫を授業に取り入れていく必要がある。</li> </ul>
5	国語	<p>【調】 新宿区学力定着度調査の結果、区の平均値よりも上回った。基礎的な問題においては大きな問題は見られないが、文章を書く問題では無回答が多く見られた。</p> <p>【学】 自分の考えを文章に表すことが苦手な児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思ったことや考えたことを書くことができるように指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はじめ」「なか」「おわり」を意識して文章を書くよう指導する。また、学習感想では、読み取ったことに対する自分の考えを書くことを繰り返していく。</li> <li>・テーマや時数を決めた作文に取り組んだり、提示した描き方をもとに書き方を学んだりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週作文を書くことで、自分の気持ちを表現できるようになってきた。</li> <li>・毎回約8割の児童がはじめ、中、終わりを意識して文章が書けるようになった。自分の思いを書くことが苦手な児童は、話すことも苦手であるため、スピーチも始めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力定着度調査の結果から、校内平均は全国平均・新宿区の平均を上回った。年度当初課題であった「書く」領域では、読書感想文・意見文・低案文・作文などにおいて書き方をパターン化したことで文章を書くことへの抵抗感が減ってきた。</li> </ul>
	算数	<p>【調】 新宿区学力定着度調査の結果は区平均値よりも上回ったが、折れ線グラフの問題の無回答が多かった。</p> <p>【学】 学習内容は理解しているものの、自分の考えを書いたり、友達に説明したりすることが苦手な子が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフの読み取りが正しくできるようにしたい。</li> <li>・自分の考えを表現する力が弱いので、書く機会を増やす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフの読み方など、前学年までの学習内容を復習する。</li> <li>・図や式、言葉で表す方法を教え、それらを活用して自分の考えをノートに表現できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードを使って、解き方や自分の考えを説明する時間をなるべく多く取ったことで、説明ができるようになってきた。間違えることを恐れて、自分の考えを書くことができない児童が1割いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力定着度調査の結果から、校内平均は全国平均・新宿区の平均を上回った。年度当初課題であったグラフの読み取りよりも割合や単位量など文章から正しく立式することが苦手な児童が多かった。基本の問題を繰り返し継続的に解く必要がある。</li> </ul>
6	国語	<p>【調】 新宿区学力定着度調査の結果、校内平均は区の平均を上回ったものの、文章を書く問題では無回答が多く見られた。</p> <p>【学】 漢字を書いたり、簡単な文章を書いたりすることはできる。しかし、自分の考えの根拠を示したり、友達に分かりやすく説明したりすることは苦手な児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を書くのに時間のかかる子が多いため、作文することに慣れたり、「始め・中・終わり」の型を身に付けたりして、書く力を身に付けることが必要である。また、考えの根拠を示す習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週末作文に取り組ませ、書くことに慣れさせる。</li> <li>・「始め・中・終わり」を意識したり、考えの根拠を示したりして文章を書くよう指導する。また、学習感想では、読み取ったことに対する自分の考えを書くことを繰り返していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週末作文を書くことで、児童は書くことに少しずつ慣れてきた。</li> <li>・型を教えることで、約8割の児童がそれに沿った文章を書くことができるようになった。その反面、自分で文章の構成を考える力は不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力定着度調査の結果では、「書くこと」の領域について全国平均を上回ったことから、文章の書き方を教えたことで、児童に書く力が身に付いたものと考えられる。ただ、依然として無回答の児童もいるため、より細やかな個別指導を行う必要がある。</li> </ul>
	算数	<p>【調】 新宿区学力定着度調査の結果、校内平均は区の平均を上回った。学習内容の定着に個人差があり、分数と小数の大小比較、小数のかけ算の理解が不十分である。</p> <p>【学】 自分の考えたことをノートに表すことはできるが、相手に分かりやすく伝えることは苦手である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の習熟を図る必要がある。特に苦手な単元については、前学年までの復習を十分に行う。</li> <li>・相手に分かりやすく伝える力を身に付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシック・ドリルの診断テストを活用して、一人ひとりの学習内容の定着度を把握する。</li> <li>・単元や授業の導入場面で前学年までの学習内容を復習してから本時の学習につなげる等、学習の系統性を意識して授業を行う。</li> <li>・互いの考えを比較検討する場面で、ICTを活用しながら、共通点や差異点、より効率的な考え等の視点をもたせて話し合う活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシック・ドリルの診断テストを実施し、苦手な単元を把握した。個別の対応については今後行う。</li> <li>・常に本単元との系統性を意識して授業を行っている。前単元までの学習内容を振り返ることで、本単元の学習にスムーズに入れるようになった。</li> <li>・自分の考えたことについて、順序立てて説明できる児童が少ない。ペア学習を取り入れるなど、考えを説明する機会を多く設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力定着度調査の結果から、全国平均を大きく上回っており、学習内容の習熟を図ることができたと考えられる。単元の系統性を意識し、既習事項を振り返りながら授業を展開したことや、自分の考えを書いたり説明させたりする機会を多くもったことにより、知識・技能の定着や思考力・判断力・表現力を身に付けることができた。</li> </ul>
音楽	<p>【学】 全体的には意欲的に学習に取り組んでいる。音楽の諸要素と関連付けて自分の感じたことや気付いたことを伝えることに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年があがるにつれ技能面の個人差が二極化する傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽のよさや特徴について感じ取ったり、どのように表現したいという思いをもって表現したりする。</li> <li>・リズムと拍の違いや、音程や音の長さといった音楽の諸要素について理解し、自ら進んで学習に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の諸要素を掲示し、常に意識して見られるようにする。</li> <li>・ICTや動画、音源などを活用し、活動への見通しやイメージをもって学習に取り組めるようにする。</li> <li>・学習の視点をしっかり意識させ、他の児童の良い気付きを共有できるようにワークシートや実物投影機の活用、発表の方法を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・p, mp, mf, fなどの強弱記号や音符について、高学年では意識して活用できるようにしてきた。今後定着できるようにする。</li> <li>・なるべくタブレット端末を活用し、個に応じた支援や、協働的な活動、意見の共有ができるように工夫している。</li> <li>・歌唱の学習が十分できない状況ではあるが、感染症対策をしながら、歌詞の内容や曲想を感じ取る学習を主に行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム打ちや楽譜の旋律を指でたどるなどの学習を多く取り入れた。楽譜を注意深く見ることができるようになってきた。高学年は強弱記号について理解ができてきた。</li> <li>・タブレット端末を活用して、リコーダーの学習も工夫しながら行うことができた。</li> <li>・音楽会を経験し、友達と音を合わせて演奏したり、歌ったりする楽しさを味わうことができた。</li> </ul>	

図工	<p>学 造形活動に興味を持ち、楽しく意欲的に活動に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道具や材料の扱い方についての経験や技能に差がある。</li> <li>・材料や道具に触れ、ものづくりを楽しむが、つくりながら発想を広げ、深めることが難しい児童がどの学年にも若干名いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な道具や材料の扱い方の苦手をなくす。</li> <li>・造形活動に対する苦手意識をなくす。</li> <li>・手順通り作る過程で、試す、工夫する等、よりよいものにしようと追究する力を培っていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な道具や材料を扱う作品を作る経験を多く積ませる。</li> <li>・実物投影機やタブレットを活用する。他の児童の作品やアイデア等を紹介し、視野を広げられるようにする。</li> <li>・材料や用具を自分の表現に合わせて「選び・試す」ことができるような時間を確保するなど、学習過程を工夫する。また、「選び・試す」ことに取り組みやすいような場の設定を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して基本的な道具や材料を扱う作品を作る経験を積ませたり、身に付いたことは発展的に扱うようにしたりすることで技能向上を目指す。経験を積ませたことで苦手意識がだいぶなくなってきた。</li> <li>・自分の表現に合わせ、材料等を「選び試す」場、「友達の作品やアイデアを見る」ような場の設定をし、発想を広げられるよう継続的に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付いたことを繰り返し発展的に扱ったことで児童の技能が向上した。基本的な道具や材料に触れる経験を積ませたことで、苦手意識をもつ児童が減った。</li> <li>・自分で材料等を「選び試す」場、「友達の作品やアイデア」を実物投影機及び自然な形で見るような場の設定を行い、発想を広げる児童が増えた。また、作品に対して「追究していこう」とする様子が見られるようになった。</li> </ul>
特支	<p>学 学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の指示や友達の話聞いて正しく理解することが難しい。</li> <li>・グループでの話し合い活動も苦手になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定の話型を使い「わからない」と伝えることはできるようになってきているが、何が「わからない」のかを伝えられない。</li> <li>・教師や友達が話している時に、思いついたことをすぐに口に出したりせず、他の人の意見を受けてから、自分の意見を述べるができるようになることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何がわからない」というように他者に伝える言葉、話型の提示。</li> <li>・二か月に一回、認知機能を高めるドリルを全学年で実施。聞く、想像するなどを中心とした認知機能を高める指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞かれても、わからないことは「わかりません」と伝えられるようになってきた。何がわからないのか、より詳しく話すのが課題である。</li> <li>・思いついたことをすぐ口に出してしまうことはあるものの、教師や友達の話や意見を聞くことはできるようになってきた。自分の考えとの違いがあっても、受け止めることはできるようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された話型を使えば、何がわからないのか、伝えられるようになってきた。</li> <li>・教師や友達の話や意見を聞くことはできるようになってきた。話を最後まで聞くことや、話の途中で思いついたことをすぐ口に出してしまうことは引き続きの課題である。自分の考えとの違いがあっても、一旦は受け止めることができるようになってきた。</li> </ul>

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。